

2007年9月中間期 決算説明会

- 2007年9月中間期 業績の概況
- キョーリングroupの取り組み
- 主要製品・開発品の状況

2007年11月8日
株式会社キョーリン
代表取締役社長 荻原郁夫



2007年9月中間期 決算概観(連結)



07年9月中間期 連結業績(実績)

売上面では、新製品の発売、主要製品の好調な推移、一時金収入の増加等により国内新医薬品が順調に推移した結果、売上高は394億円(前年比12.2%増)となりました。

利益面では、R&D費並びに新薬上市に伴う販売費等の増加により販売費及び一般管理費が前年に対し32億円増加した結果、営業利益は28億円(前年比43.7%増)、当中間純利益は10億円(前年比14.4%増)となりました。

08年3月期 連結業績(予想)

売上面では、上期同様に国内新医薬品は順調に推移し、売上高は834億円(前年比8.2%増)と伸長する見込みです。

利益面では、R&D費並びに販売費などの増加により販売費及び一般管理費は当初予想を上回るため、営業利益は79億円(前年比6.1%減)、当期純利益37億円(前年比23.6%減)を見込みます。

単位:百万円	05年9月期	06年9月期	07年9月期	前年比	08年3月期 (予想)	前年比	08年3月期 (当初予想)
売上高	33,511	35,093	39,363	12.2%	83,400	8.2%	83,600
営業利益	2,406	1,940	2,788	43.7%	7,900	▲6.1%	8,500
経常利益	2,753	2,061	3,118	51.3%	8,500	▲1.8%	9,100
中間純利益	1,459	833	953	14.4%	3,700	▲23.6%	5,000
EPS	19.65円	11.21円	12.74円	13.6%	49.44円	▲23.9%	66.78円
総資産	116,566	117,915	121,776	3.3%	-	-	-
純資産	91,483	94,993	97,427	2.6%	-	-	-

* 05年9月中間期決算数値は杏林製薬(連結)の数値

06年9月期以降の業績及び08年3月期予想(連結)は株式会社キョーリンの数値を示す(以下の資料についても同様の数値を示す)

* 05年9月中間期の純資産には資本合計を表記

2007年9月中間期 業績の状況(連結)



単位:億円

	06年 9月期 (実績)	07年 9月期 (実績)	対前年 増減
売上高 合計	351	394	+43
◆新医薬品	287	328	+41
国内	265	303	+38
海外	22	25	+ 3
◆後発 医薬品	26	25	▲ 1
◆ヘルスケア	33	35	+ 2
◆その他	5	5	± 0
営業利益	19	28	+ 9
経常利益	21	31	+10
中間純利益	8	10	+ 2

■売上高	394億円	対前年 (+43)	対予想 (▲9)
●国内新医薬品	303億円	(+38)	(+1)
	06.9実績	07.9実績	
・キプレス	69	⇒ 79	(+10)
・ペンタサ	40	⇒ 44	(+4)
・ムコダイン	89	⇒ 90	(+1)
・ウリス(新製品)	0	⇒ 5	(+5)
* ヘスバンダービジネスの譲渡に関する一時金収入等			
●海外新医薬品	25億円	(+3)	(±0)
・ガチフロキサシン	18	⇒ 16	(▲2)
* 一時金収入の増加 * ガチフロ;BMS社テクイン販売中止、アラガン社ザイマーは続伸			
●後発医薬品	25億円	(▲1)	(▲3)
* 前年に実施した品目整理による影響			
●ヘルスケア	35億円	(+2)	(▲6)
・ミルトン	10	⇒ 10	(±0)
・ドクタープログラム	12	⇒ 16	(+4)
●その他	5億円	(±0)	(▲1)
◆原価率:前年比4.1ポイント減少		(41.4%⇒37.3%)	
低下要因: 自社品の新発売及び一時金収入の増加、 能代工場減価償却費の減少			
◆研究開発費率:前年比3.1ポイント上昇		(11.3%⇒14.4%)	
* 40億円⇒57億円(約17億円増加) 共同開発費用の計上(06年度からの期ズレ)			
◆販管費率(除R&D費):前年比0.7ポイント低下		(41.8%⇒41.1%)	
新薬上市に伴い販促費は増加するものの、売上の増加により販管費率は低下			
■営業利益	28億円	(+9)	(▲3)
* 営業利益率は7.1%と1.6ポイント上昇			
■中間純利益	10億円	(+2)	(▲10)
* 特別損失:約4億円 * キョーリンリメディオにおける繰延税金資産取り崩し約2億円			
■配当	15円00銭		

2008年3月期 業績の予想(連結)



単位:億円

	07年 3月期 (実績)	08年 3月期 (修正予想)	対前年 増減
売上高 合計	771	834	+63
◆新医薬品	630	684	+54
国内	572	642	+70
海外	58	42	▲16
◆後発 医薬品	57	55	▲2
◆ヘルスケア	73	83	+10
◆その他	11	11	±0
営業利益	84	79	▲5
経常利益	87	85	▲2
当期純利益	48	37	▲11

■売上高	834億円	対前年 (+63)	当初予想との差異 (▲2)
●国内新医薬品	642億円	(+70)	(+11)
	07.3実績	08.3予想	*キプレスの上方修正
・キプレス	150	⇒ 182	(+32)
・ウリス(新製品)	—	⇒ 11	(+11)
・ペンタサ	80	⇒ 89	(+9)
・ムコダイン	204	⇒ 212	(+8)
●海外新医薬品	42億円	(▲16)	(±0)
・ガチフロキサシン	32	⇒ 31	(▲1)
			* 導出品の契約に関する一時金収入の減少
●後発医薬品	55億円	(▲2)	(▲9)
●ヘルスケア	83億円	(+10)	(▲4)
・ミルトン	21	⇒ 21	(±0)
・ドクタープログラム	28	⇒ 40	(+12)
●その他	11億円	(±0)	(▲1)
◆原価率	約2ポイント低下		
	低下要因: 自社品の新発売及び一時金収入の増加、 能代工場減価償却費の減少		
◆研究開発費率	…11.2%⇒13.1%:1.9ポイント上昇		
	* 研究開発費: 86億円⇒109億円(23億円増)		
◆販管費率(除R&D費)	約1ポイント上昇		
	* 新薬上市並びに効能追加による販促費の増加及びドクタープログラムの販売費増加により、販管費率は約1ポイント上昇を見込む		* 販管費の増加
■営業利益	79億円	(▲5)	(▲6)
	* 営業利益率は9.5%と1.4ポイント低下		
■当期純利益	37億円	(▲11)	(▲13)
	* 特別損失約12億円を見込む		
■配当	配当30円00銭 (予想)		
	* 配当に対する考え方: 配当性向50%を目指す		

キョーリンMIC-'09計画

(2005年度～2009年度)

目指す企業像:

「創薬ビジネスをコアとし、信頼をベースとした
特色ある複合ヘルスケア企業」

◆基本方針:

「進化と創造Ⅱ」

MIC-'09基本戦略

- ① グローバル創薬企業としてのポジショニングの確立
- ② 創薬投資を支える医薬事業との競争力確保
- ③ 医薬事業に次ぐ将来を担う新規事業の構築

目標値: ROE 7.0% 後期開発品 年1品目

2007年度経営方針

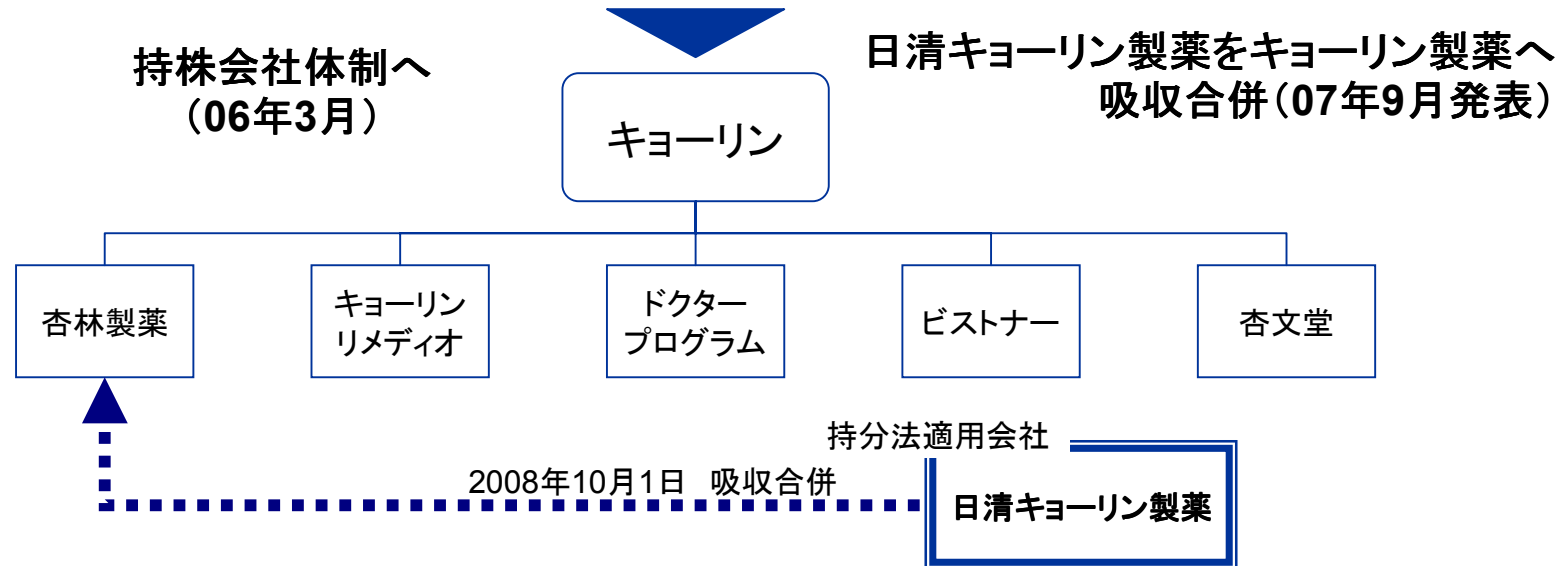
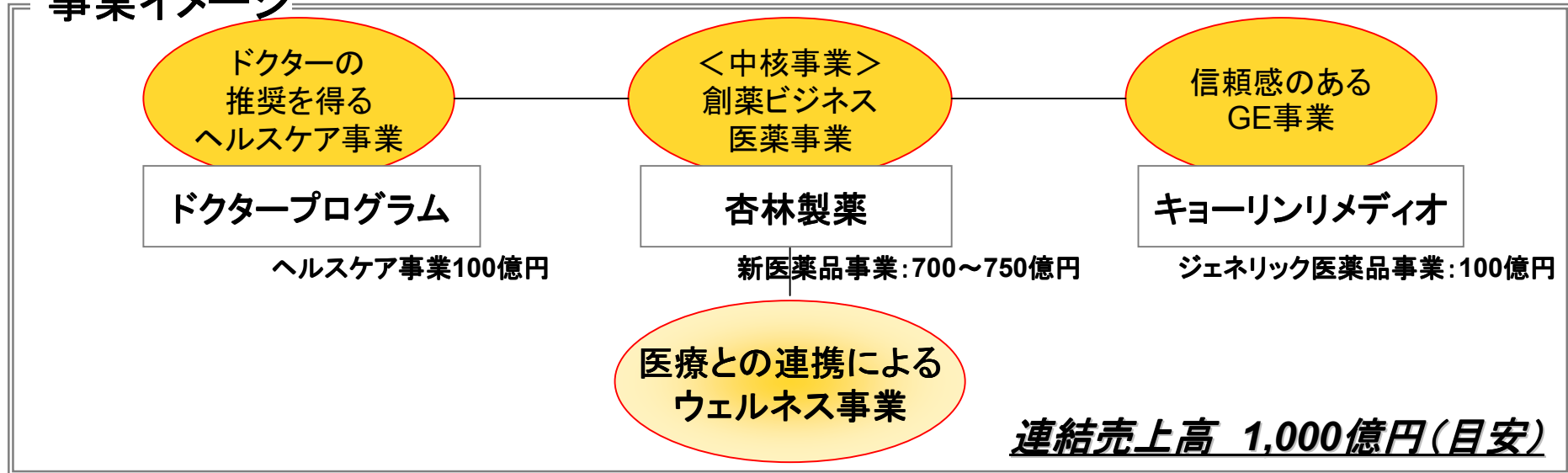
- ・ 目標達成への成長軌道の確保

*「キョーリンMIC-'09計画」の目標達成に向け
それぞれの事業ドメイン及びグループ全体を成長軌道に乗せる年

キョーリンMIC-'09の目指す企業イメージ



事業イメージ



キョーリン製薬と日清キョーリン製薬の事業を一本化することにより

- 効率的な営業活動
 - ・ペンタサ事業の競争力の維持・向上
 - ・MR750名体制による主要製品の売上拡大
- 研究開発力の強化
 - ペンタサ周辺の開発製品の拡充
- 効率経営の実現
 - 事業所拠点の集約・事業費用の最適化
- キョーリンの後発医薬品事業の強化

日清キョーリン製薬の吸収合併:財務状況



	日清キョーリン製薬
売上高	130億円
営業利益	13億円
当期純利益	8億円
純資産	44億円

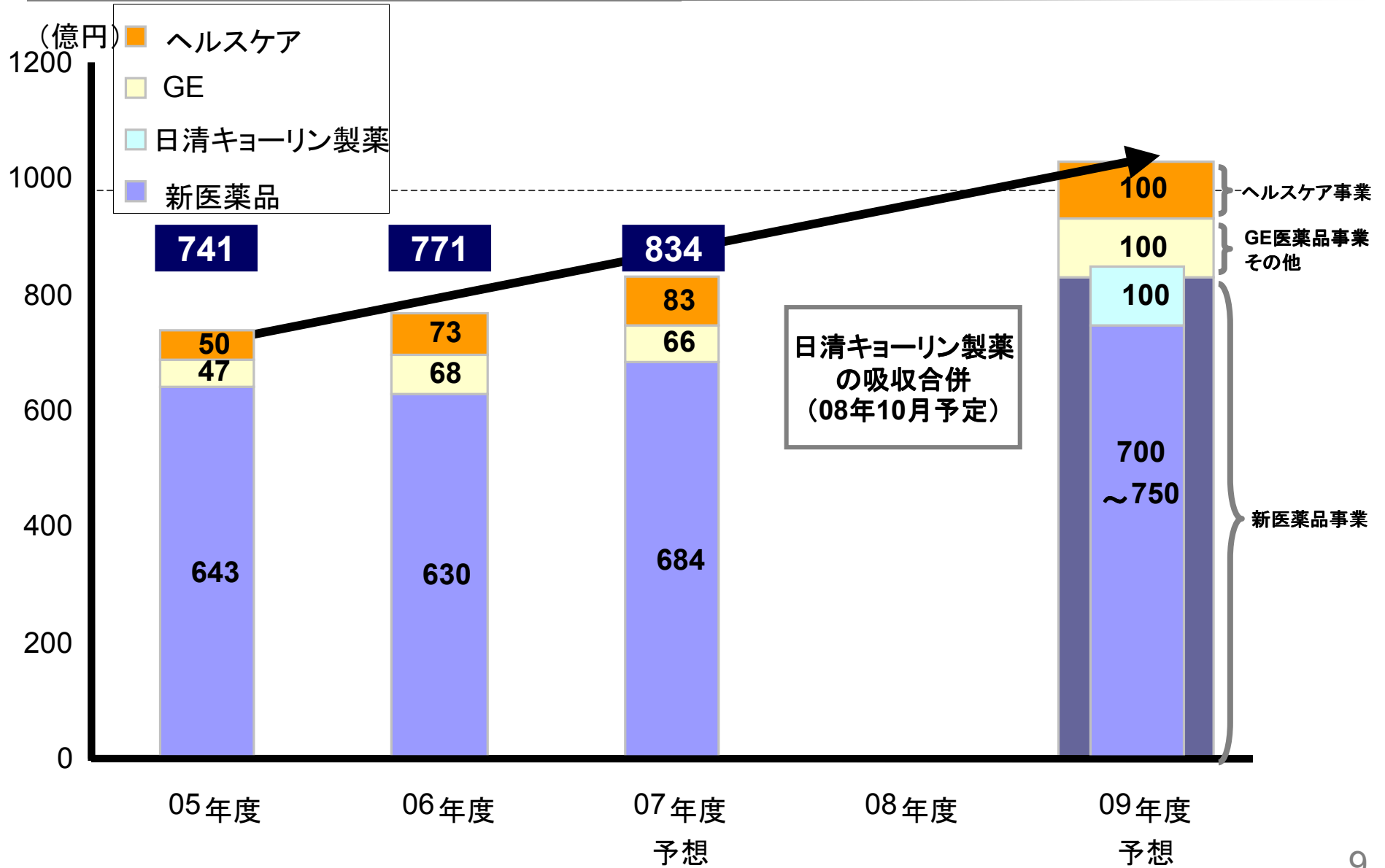
(2007年3月期 実績)

合併後の連結業績への影響	
	100億円 + α
	13億円 + α
	4億円 + α
	—

日清キョーリン製薬の本社、大阪工場、営業支店、研究所は閉鎖し、キョーリン製薬に統合する予定

コスト削減

連結売上高のイメージ



グローバル創薬企業としてのポジショニングの確立 —創薬ビジネスにおける果実の創製—

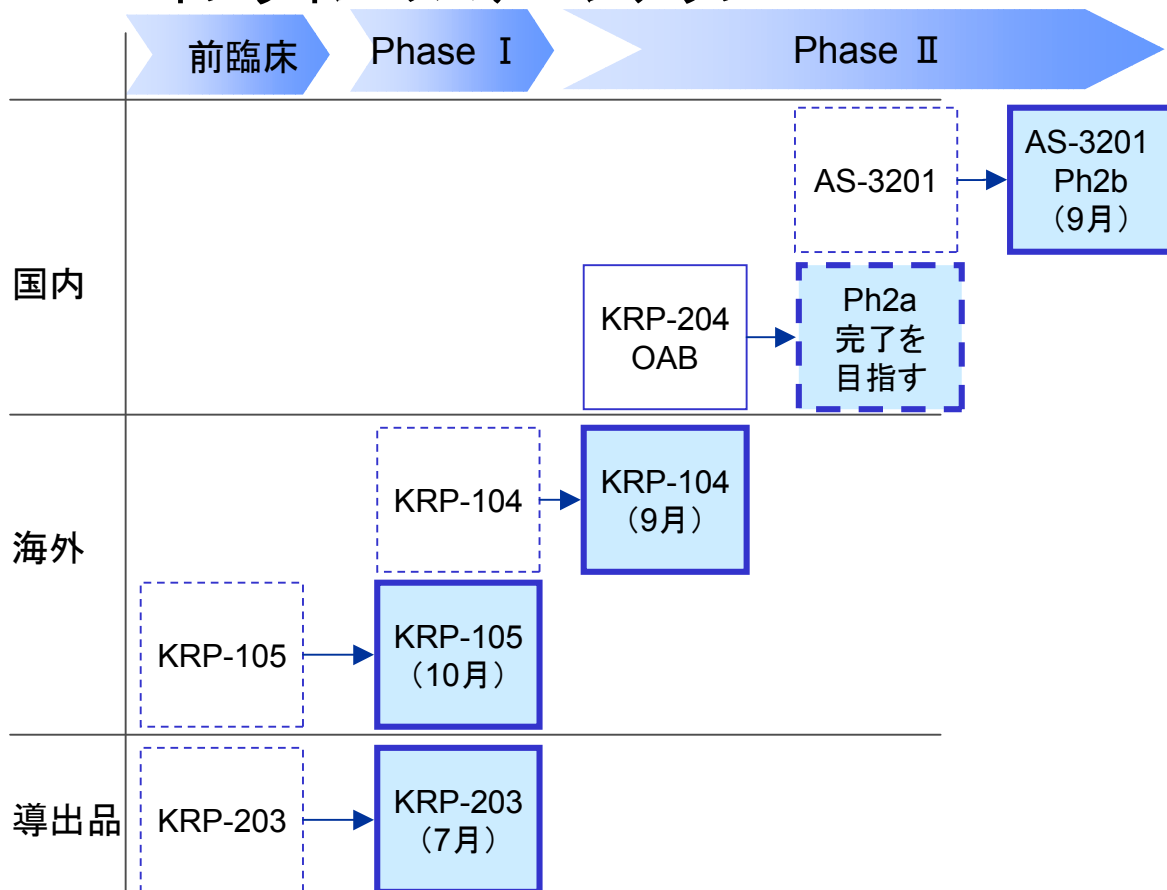


1. 申請品の状況

- ・新発売 ウリトス 6月、キプレス細粒4mg 10月
- ・承認予定 キプレスアレルギー性鼻炎(今年度中の承認予定)

* 10月22日 薬事・食品衛生審議会の医薬品第1部会で承認を了承

2. パイプラインのステージアップ



2007年度 中間期
パイプラインのステージアップは
予定通り順調に進展

- ### 今後の取組み
- ◆グローバル創薬研究力の強化
 - ◆効率的なリード化合物の創製
 - ◆国内、海外臨床試験へのスピーディーな対応

創薬投資を支える医薬事業の競争力強化 —FC戦略の真価を示す—



既存品の売上を落とすことなく新薬売上を上積み

新製品による売上増加

ウリス 予想:11億円(6月上市)
キプレス細粒4mg 予想:10億円(10月上市)
アレルギー性鼻炎 効能追加(年度内)

**主要製品の
継続的な伸長**

3%以上の数量増を目指す
LCMとしてデータの効果的活用(ムコダイン COPDなど)
* LCM:ライフサイクルマネジメントの略

新薬+既存品のマルチディテールを実施

国内新医薬品	
上期	265億円 (06年9月期) ⇒ 303億円 (07年9月期) 38億円増(実績)
通期	572億円 (07年3月期) ⇒ 642億円 (08年3月期予想) 70億円増を見込む

(1) 実績と見通し

上市: 2007年6月11日
中間期実績: 5億円(07年9月期)
初年度予想: 11億円(08年3月期)
ピーク目標: シェア8~10%(2010年3月期)

ライフサイクルの長い製品
として育成を図る

今後の取組み

- ウリトスのポジション確保
- 製品特性に沿った浸透(安全性など)
 - 計画先への確実な採用付け

(2) 上期の取組みと状況

◆ 病院への早期採用と
GP層での拡販に取り組む

病院での採用及び泌尿器科(GP層)
への納入はほぼ順調

市場の状況

07年3月期

350億円

07年9月期

380億円

ロイコトリエン拮抗剤 キプレス



1. キプレスの実績と見込み

単位: 億円

2007年3月期		2008年3月期	
通期実績		通期予想	当初予想
150		182	163

2. 気管支喘息治療における細粒4mgの位置付け

()は気管支喘息患者数 出典:厚生労働省統計データ

	1~5歳 (18万人)	6~14歳 (24万人)	15歳以上 (74万人)
疾患の特長	小児喘息の90%以上が5歳までに発症		
	* 乳幼児から成人まで全ての喘息患者さんの治療に貢献		
キプレス	細粒4mg 10月2日発売 (07年度10億円予想)	チュアブル錠5	錠10

3. アレルギー性鼻炎効能追加の状況

・今年度中の承認予定 *** 10月22日 薬事・食品衛生審議会の医薬品第1部会で承認を了承**

◆ロイコトリエン拮抗剤の特長 鼻閉などを改善する、眠気の少ない可能性

◆アレルギー性鼻炎治療剤の市場性 約2,000億円
(ロイコトリエン拮抗剤市場は80~100億円)

FC戦略

LCMの推進

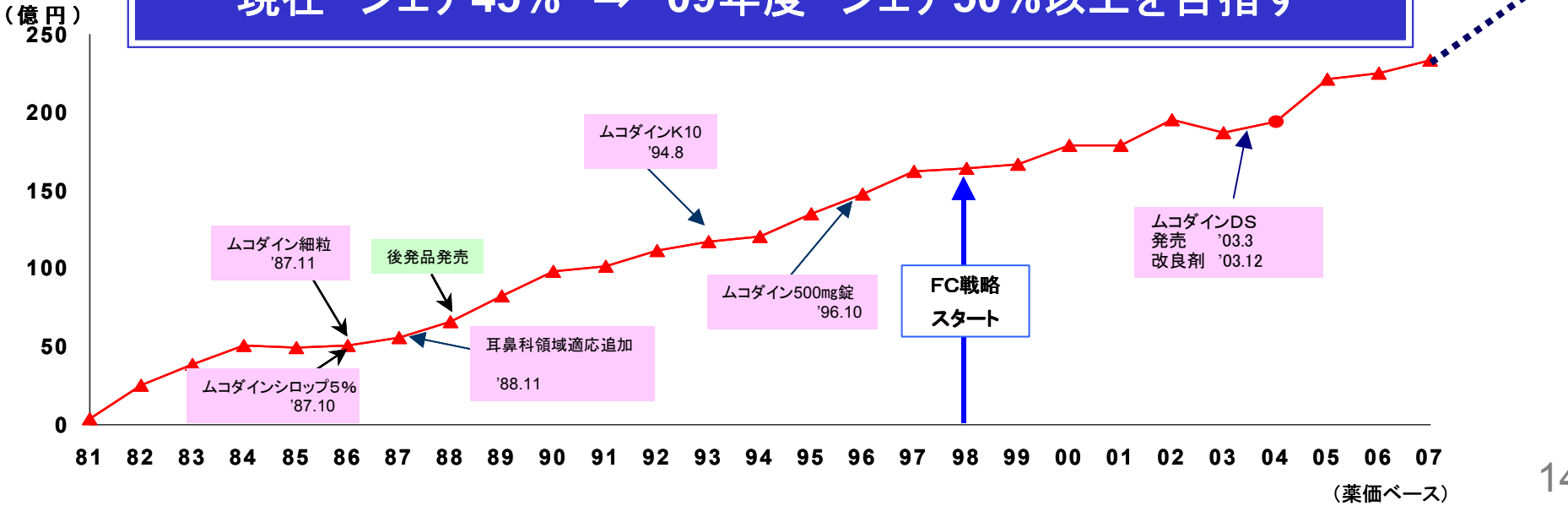
呼吸器内科、耳鼻科の強化

COPD増悪に対するアプローチ
 ■ 推定患者数 530万人

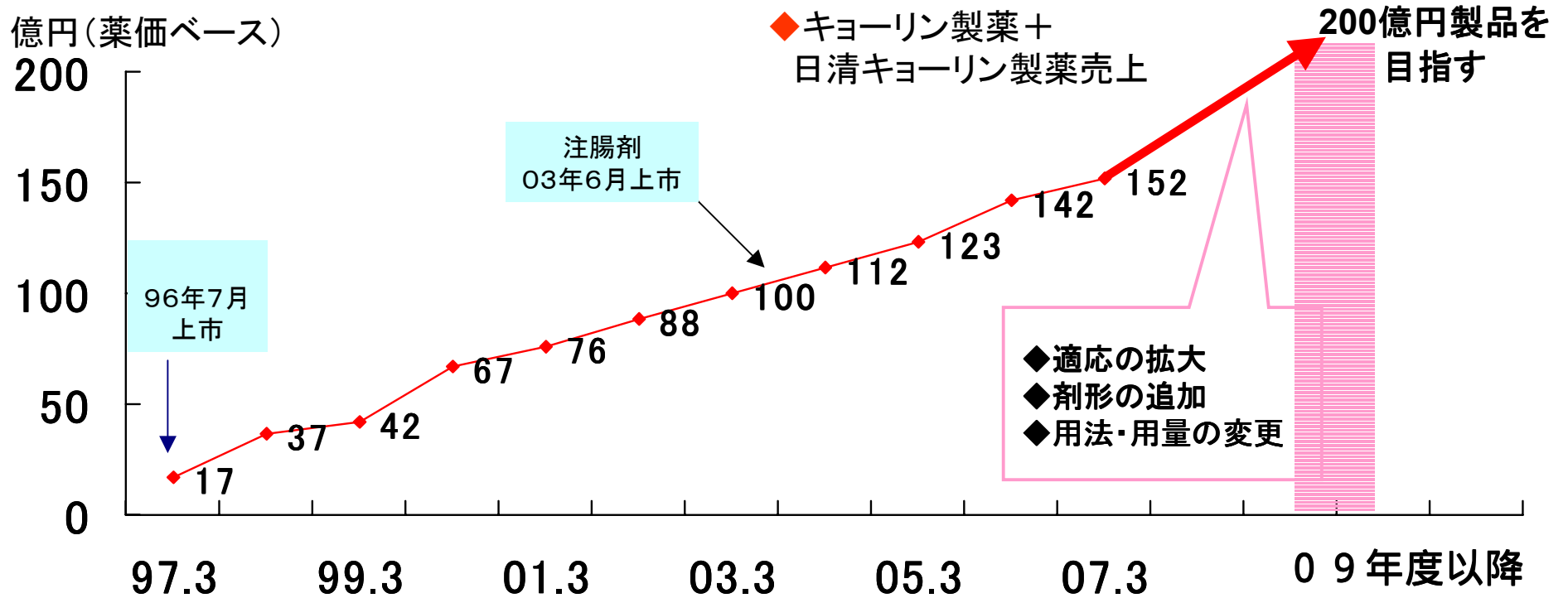
PEACE Study
 ◆ COPD増悪回数の有意な減少
 ○ 健康関連のQOLの改善
 ○ 感冒の罹患回数の有意な減少

LCM: ライフサイクルマネジメントの略
 FC: フランチャイズカスタマーの略

現在 シェア45% ⇒ 09年度 シェア50%以上を目指す



潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬 ペンタサ



キョーリン製薬と日清キョーリン製薬の事業を一本化することによりペンタサの競争力の向上を図る

医薬事業に次ぐ将来を担う新規事業の構築

①キョーリンリメディオ 2007年度中間期の状況



	05年5月期 (子会社化前)	06年1月期 (実績:8ヶ月分)	07年1月期 (実績)	中間期			08年1月期	
				06年度実績	07年度実績	当初予想	修正予想	当初予想
売上高	65	44	69	32	30	34	65	76
営業利益	0	3	2	0	▲4	▲1	▲2	4
当期純利益	▲1	2	▲0	▲0	▲9	▲2	▲8	1

中間期
(前年との比較)

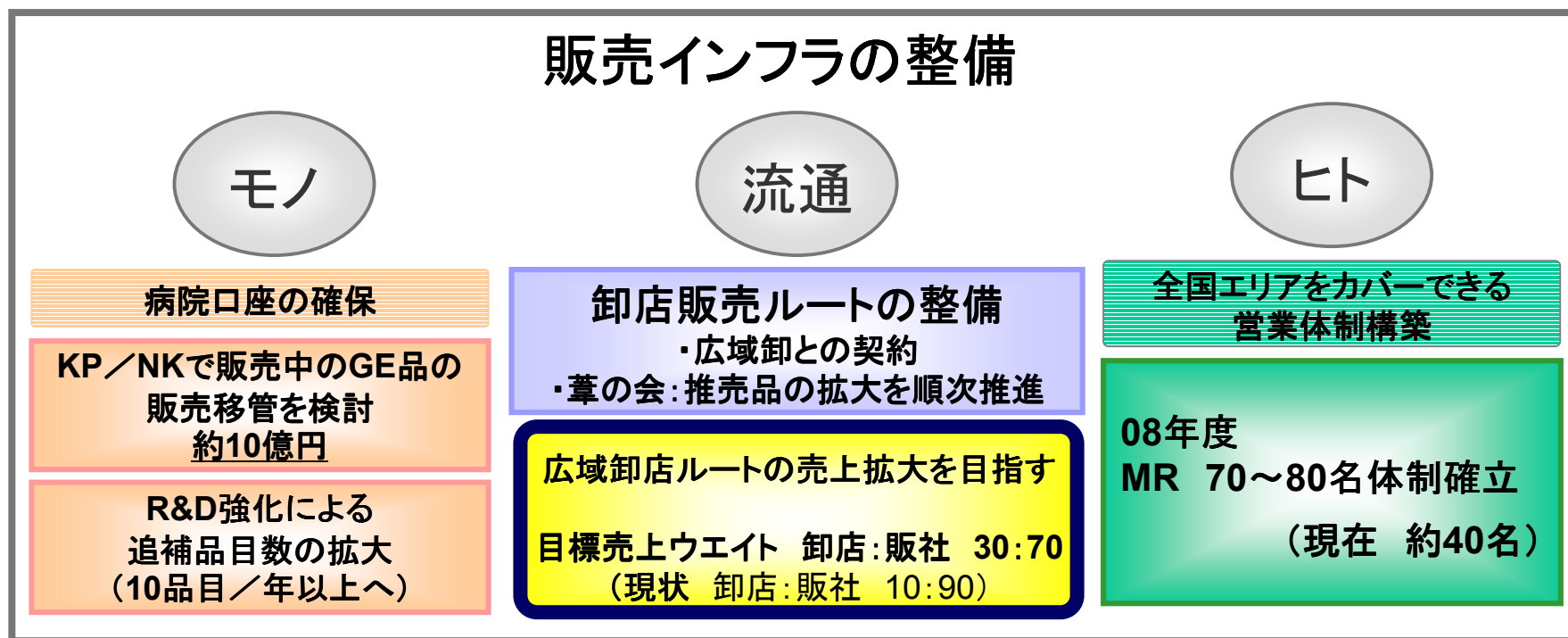
- 売上高
 - ・前年に実施した品目整理(450品目→約200品目)の影響
 - ・受託製造品(医療用、OTC)の減少
- 営業利益
 - ・R&D費等販管費の増加(次年度以降の追補品の強化)
 - ・原価率のup(売上減に伴う工場の稼働率低下)
- 当中間純利益
 - ・特別損失増加、繰延税金資産取り崩し

今後の取組み



医薬事業に次ぐ将来を担う新規事業の構築

②キョーリンリメディオの営業展開



KP:キョーリン製薬の略、NK:日清キョーリン製薬の略

市場の拡大が期待される
病院市場／調剤薬局への納入拡大

2010年1月期目標:売上高100億円、営業利益10億円の達成

医薬事業に次ぐ将来を担う新規事業の構築 ドクタープログラム 2007年度中間期の状況



	05年6月期 (実績)	06年1月期 (実績:7ヶ月分)	07年1月期 (実績)	中間期			08年1月期	
				06年度実績	07年度実績	当初予想	修正予想	当初予想
売上高	5	8	28	12	16	19	40	41
営業利益	0	0	3	1	▲2	1	0	4
当期純利益	0	0	2	1	▲1	1	0	2

中間期

- ◆新製品及びリニューアル品を5品目投入
- ◆顧客の掘り起こし／顧客転換率のアップに取り組むも不十分
- ◆売上未達と体制整備によるコスト増により当中間期は営業損失

今後の取組み

- ◆新製品ナノカプセルジェル等を含む10品目以上を投入し挽回を図る
- ◆飛躍的成長に向け基礎固めを継続実施

- ・顧客名簿増加、転換率拡大に継続的に取り組む
- ・成長軌道維持のために今期は販促費を上積み
- ・事業基盤強化に向け人員・組織を強化(既に実施)



多重層ナノカプセル、インテリジェントカプセル、シャワーカプセルの3種類のカプセルを使用した「トリプルカプセルシステム」を採用。
既存品よりも確実に良い製品に仕上がった。

キョーリン製薬： 主要開発品の状況

開発品一覧①(07年11月7日現在)



申請中

* : 前回(08年3月期第1四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
上市 (07年6月)	Ph I	ウリトス(錠)	過活動膀胱治療薬	自社	抗コリン作用が強く、口渇等の副作用軽減が期待される	国内:小野薬品工業と共同開発・共同販売
* 上市 (07年10月)	(メルク社発売中)	キプレス細粒 4mg	気管支喘息治療剤	メルク社	小児(1歳~5歳)用の新規製剤	○剤形追加 ○新用量 万有製薬と共同開発
申請 (05年8月)	(メルク社発売中)	キプレス錠 モンテルカスト	気管支喘息治療剤	メルク社	成人:アレルギー性鼻炎 1日1回の投与で、LTD4の遮断による鼻炎症状(鼻閉、鼻漏、くしゃみ)の改善とともに、眠気などの副作用軽減が期待できる	○効能追加 万有製薬と共同開発

開発品一覧②(07年11月7日現在)



POCプロジェクト及びPh II ~ III

* : 前回(08年3月期第1四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
Ph III (07年2月)	(メルク社Ph III)	モンテルカスト (注射剤)	気管支喘息治療剤	メルク社	成人:気管支喘息剤形追加(注射剤)	万有製薬と共同開発
	Ph II (04年10月)	KRP-204(錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が小さく、肥満 を改善することが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発
Ph II (07年3月)		KRP-204(錠)	過活動膀胱治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩さ せて蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発
Ph II (05年3月)	(エーザイ Ph II / III)	AS-3201(錠)	糖尿病合併症治療 剤	大日本住友 製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	大日本住友製薬と共同開 発(国内のみ)
	Ph II (04年6月)	KRP-101(錠)	脂質代謝改善/糖 尿病治療剤	自社	PPARαアゴニスト 中性脂肪等脂質代謝改善作用に加えて、糖尿病に対 する有効性が期待される	
Ph I (06年7月)	* Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤 インスリン分泌ホルモンの分解を抑えることにより血糖 低下作用を示す。副作用の発現が少ない糖尿病治療 が期待される	
	* Ph I (07年7月)	KRP-203	臓器移植、 自己免疫疾患	自社	S1P受容体アゴニスト 新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制 剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期 待される	ノバルティス社とライセンス 契約(06年2月)
	* Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPARαアゴニスト KRP-101よりもさらにPPARα受容体に対して選択性 が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増 加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実 験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待さ れる	

開発品一覧③(07年11月7日現在)



導出品の状況

* : 前回(08年3月期第1四半期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
未定	米国メルク社	-	合成抗菌剤	自社 米国メルク社	・共同研究 ・独占的ライセンスに関する契約締結 (04年7月)
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	* 国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月) ・07年3月 国内PhⅡ 終了
ケタス	米国メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における独占的な開発、製造販売権を供与 (04年10月) ・07年3月途中経過を発表
KGA-757	米国メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息:06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎:05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイスノバルティス社	* 海外PhⅠ (07年7月)	臓器移植、 自己免疫疾患	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤として、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤としては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

参考資料

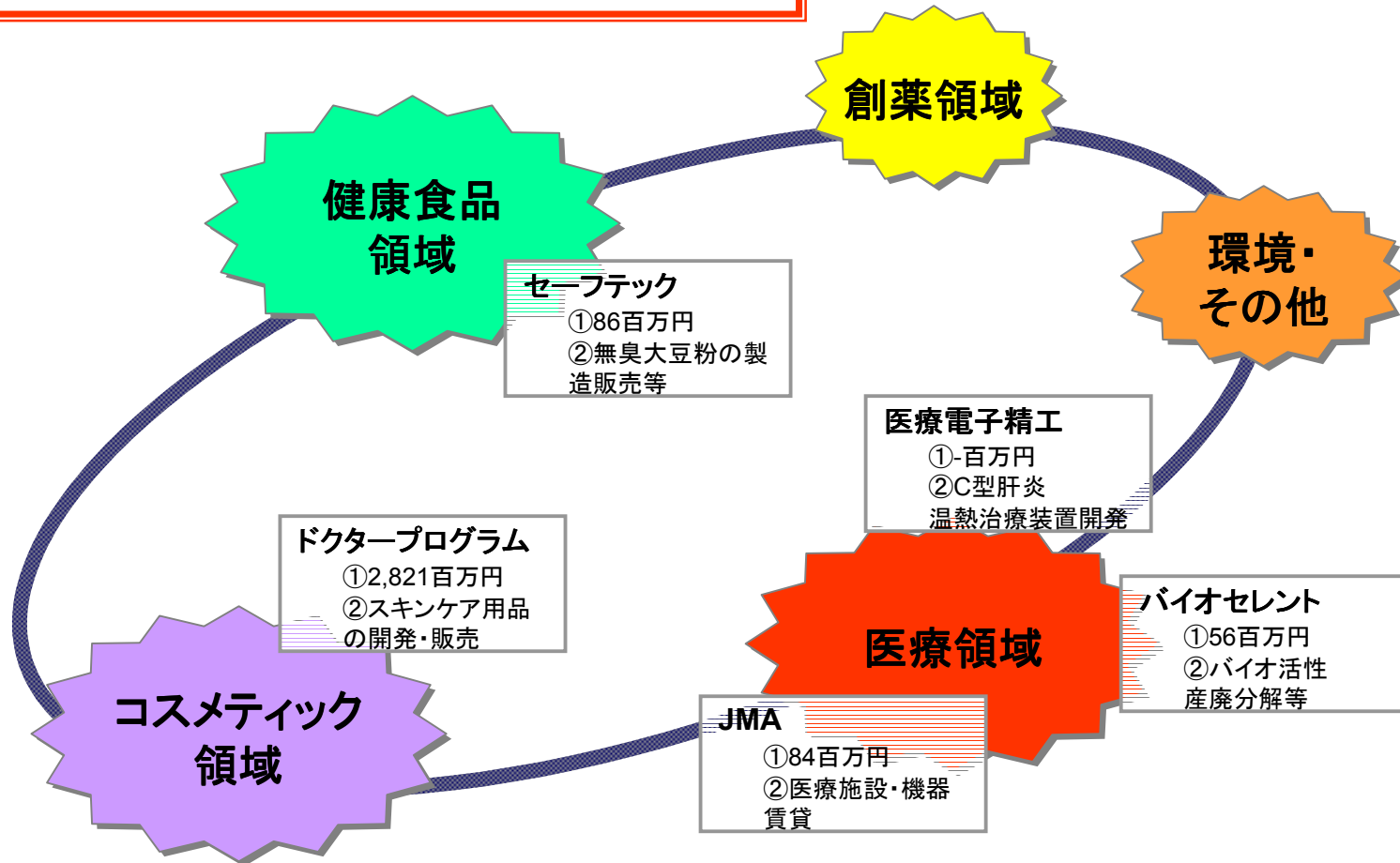
ビストナー事業ファンドの状況



・設立: 2000年9月
 ・出資額: 50億円(既出資額 42億円)
 ・投資状況: 既投資先 27件 投資額 28億円

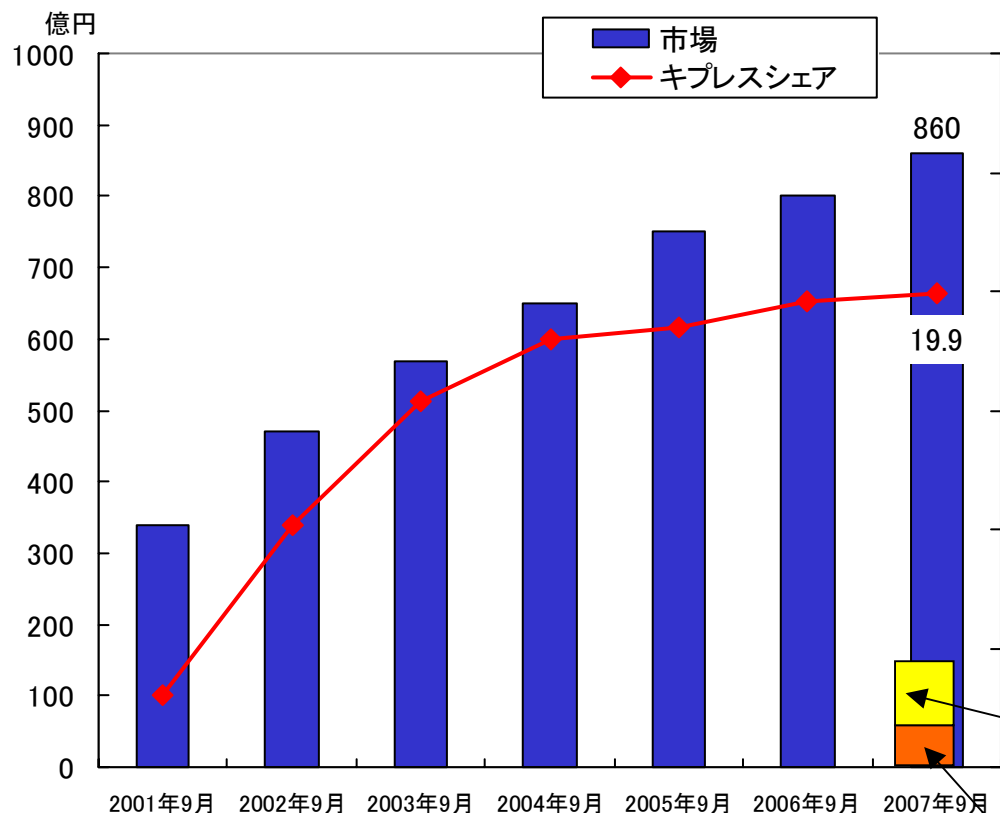
※①売上高 ②主な事業内容

対象領域	
創薬関連・医薬領域	7件
医療関連領域	12件
健康食品領域	3件
コスメティック領域	3件
環境・その他	2件

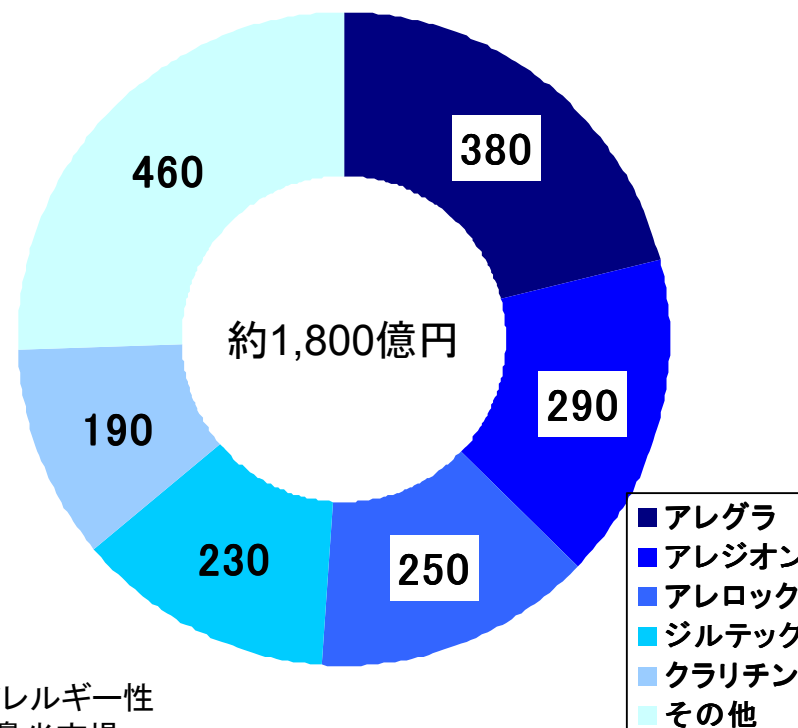


- ファンドの運用管理強化により、投資先の早期ビジネス化
- ヘルスケア・ウェルネス領域を中心とした投資領域の選択

1、ロイコトリエン拮抗剤市場の推移



2、アレルギー性鼻炎の効能を有する抗ヒスタミン剤の市場



アレルギー性
鼻炎市場:
80~100億円

気管支喘息1~5歳市場:
40~50億円

参考資料: 主な子会社の業績と予想



杏林製薬	
売上高	
営業利益	
当期純利益	

06年度上期	07年度上期
303	342
18	31
10	17

07年3月期	08年3月期 (予想)
661	717
76	80
47	44

キョーリンリメディオ	
売上高	
営業利益	
当期純利益	

06年度上期	07年度上期
32	30
0	▲4
▲0	▲9

07年1月期	08年1月期 (予想)
69	65
2	▲2
▲0	▲8

ドクタープログラム	
売上高	
営業利益	
当期純利益	

06年度上期	07年度上期
12	16
1	▲2
1	▲1

07年1月期	08年1月期 (予想)
28	40
3	0
2	0

(単位: 億円)

08年3月期 (当初予想)
706
73
45

08年1月期 (当初予想)
76
4
1

08年1月期 (当初予想)
41
4
2

2007年9月中間期 決算概要

財務諸表の概況

損益計算書の概要：連結 -



(単位:百万円)

	06年9月期		07年9月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	35,093	100.0%	39,363	100.0%	12.2%	4,269
新医薬品	28,704	81.8%	32,801	83.3%	14.3%	4,097
国内	26,477	75.4%	30,289	76.9%	14.4%	3,812
海外	2,227	6.4%	2,512	6.4%	12.8%	284
後発医薬品	2,591	7.4%	2,539	6.5%	▲2.0%	▲51
ヘルスケア	3,298	9.4%	3,545	9.0%	7.5%	246
その他	499	1.4%	477	1.2%	▲4.5%	▲22

< 適応範囲及び持分法の適用について >

連結子会社9社：杏林製薬(株) (株)杏文堂 (株)ピストナー
 ピストナー番号投資事業有限責任組合
 Kyorin USA, Inc. Kyorin Europe GmbH
 ActivX Biosciences, Inc.
 キョーリンリメディオ(株)
 ドクタープログラム(株)
 持分法適用会社2社：日清キョーリン製薬(株)
 日本理化学薬品(株)

< 当期のポイント >

対前年

売上高 39,363百万円 (+4,269百万円)
 国内新医薬品 30,289百万円 (+3,812百万円)

06.9実績 07.9実績(億円)

・キプレス 69 79(+10)
 ・ペンタサ 40 44(+4)
 ・ムコダイン 89 90(+1)
 ・ウリトス(新製品) 0 5(+5)

*ヘスパンダービジネスの譲渡に関する一時金収入等

海外新医薬品 2,512百万円 (+284百万円)

・ガチフロ 18 16(-2)

*一時金収入の増加

*ガチフロ；BMSテクイン販売中止、
 アラガン社ザイマーは続伸

後発医薬品 2,539百万円 (51百万円)

*前年に実施した品目整理による影響

ヘルスケア 3,545百万円 (+246百万円)

・ミルトン 10 10(±0)
 ・ドクタープログラム12 16(+4)

その他 477百万円 (22百万円)

損益計算書の概要：連結 -



(単位:百万円)

	06年9月期		07年9月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	35,093	100.0%	39,363	100.0%	12.2%	4,269
売上原価	14,513	41.4%	14,701	37.3%	1.3%	188
売上総利益	20,580	58.6%	24,661	62.7%	19.8%	4,081
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	18,639 (3,982)	53.1% 11.3%	21,873 (5,676)	55.6% 14.4%	17.4% (42.5%)	3,234 (1,693)
営業利益	1,940	5.5%	2,788	7.1%	43.7%	847
営業外収益	481	1.4%	525	1.3%	9.3%	44
営業外費用	361	1.0%	195	0.5%	▲45.8%	▲165
経常利益	2,061	5.9%	3,118	7.9%	51.3%	1,057
特別利益	149	0.4%	5	0.0%	▲96.2%	▲144
特別損失	450	1.3%	449	1.1%	▲0.3%	▲1
税金等調整前 中間純利益	1,760	5.0%	2,675	6.8%	51.9%	914
法人税・住民税 及び事業税	788	2.2%	842	2.2%	6.9%	54
法人税等調整額	144	0.4%	878	2.2%	506.9%	734
少数株主損失	6	0.0%	—	—	—	▲6
中間純利益	833	2.4%	953	2.4%	14.4%	120

< 当期のポイント >

原価率：前年比 4.1ポイント低下

(41.4% 37.3%)

* 低下要因：自社品の新発売及び一時金収入の増加、
能代工場減価償却費の減少

研究開発費率：前年比 3.1ポイント上昇

(11.3% 14.4%)

* 40億円 57億円 (約17億円増加)：
共同開発費用の計上(06年度からの期ズレ)

販管費率(除R&D費)：前年比0.7ポイント低下

(41.8% 41.1%)

* 低下要因：新薬上市に伴い販促費は増加するものの
売上の増加により販管費率は低下

営業利益 2,788百万円

(+ 847百万円)

* 営業利益率は7.1%と1.6ポイント上昇

中間純利益 953百万円

(+ 120百万円)

* 特別損失：約4億円

* キョーリンリメディオにおける繰延税金資産取り崩し
約2億円

中間配当 15円00銭

貸借対照表の概要：連結



(単位：百万円)

	07年3月期		07年9月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	64,860	52.3%	63,678	52.3%	▲1,182
現金および預金	12,749		7,228		
受取手形及び売掛金	31,514		26,947		
有価証券	1,111		8,067		
棚卸資産	14,614		17,165		
その他流動資産	4,871		4,268		
固定資産	59,179	47.7%	58,098	47.7%	▲1,080
有形固定資産	19,637		19,232		
無形固定資産	4,116		3,213		
投資その他	35,424		35,653		
資産合計	124,039	100.0%	121,776	100.0%	▲2,263
流動負債	19,941	16.1%	18,152	14.9%	▲1,788
支払手形及び買掛金	9,687		10,284		
その他流動負債	10,253		7,867		
固定負債	5,920	4.7%	6,196	5.1%	276
負債合計	25,861	20.8%	24,349	20.0%	▲1,512
株主資本	96,922	78.2%	96,313	79.1%	▲608
評価・換算差額等	1,256	1.0%	1,113	0.9%	▲142
少数株主持分	—	—	—	—	—
純資産合計	98,178	79.2%	97,427	80.0%	▲750
負債及び純資産合計	124,039	100.0%	121,776	100.0%	▲2,263

<当期のポイント>

■ 流動資産：1,182百万円減

- ・現金、預金の減少 (5,520百万円減)
- ・受取手形、売掛金の減少 (4,567百万円減)
- ・有価証券の増加 (6,955百万円増)
- ・棚卸資産の増加 (2,551百万円増)
- ・その他流動資産の減少 (603百万円減)

■ 固定資産：1,080百万円減

- ・有形固定資産の減少 (404百万円減)
- ・無形固定資産の減少 (903百万円減)
- ・投資その他の増加 (228百万円増)

■ 流動負債：1,788百万円減

- ・支払手形及び買掛金の増加 (596百万円増)
- ・その他流動負債の減少 (2,385百万円減)

■ 固定負債：276百万円増

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況 < 連結 > 中間



(単位: 百万円)

	04年9月期	05年9月期	06年9月期	07年9月期		08年3月期 (予想)	08年3月期 (当初予想)
				実績	増減比		
研究開発費	5,972	6,001	3,982	5,676	+42.5%	10,900	11,000
設備投資(計上ベース)	3,281	982	1,223	1,451	+18.6%	2,500	2,800
減価償却費	1,789	1,660	2,304	2,214	▲3.9%	4,600	4,600

< 設備投資の状況 (実績 / 計画) >

	07年3月期	08年3月期	
	実績	中間実績	通期計画
(実績)			
工場設備(キョーリンリメディオセンター棟等)	20億円		
管理・販売設備	5億円		
研究用設備	4億円		
(実績 / 計画)			
工場設備		8億円	1.4億円
管理・販売設備		1億円	4億円
研究用設備		5億円	7億円

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況<連結>通期



(単位:百万円)

	03年3月期	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期		08年3月期 (予想)	08年3月期 (当初予想)
					実績	増減比		
研究開発費	7,009	8,219	12,698	10,107	8,609	▲14.8%	10,900	11,000
設備投資	3,301	5,670	6,172	4,605	2,954	▲35.9%	2,500	2,800
減価償却費	3,637	4,774	3,894	3,646	4,544	+24.6%	4,600	4,600

<設備投資の状況(実績/計画)>

(実績)

工場設備(キョーリンリメディオセンター棟等)
管理・販売設備
研究用設備

07年3月期実績

20億円
5億円
4億円

08年3月期計画

14億円
4億円
7億円

(計画)

工場設備
管理・販売設備
研究用設備

主要製品売上の状況：中間



	04年9月期	05年9月期	06年9月期	07年9月期		08年3月期 (予想)	08年3月期 (当初予想)
				実績	前 同 比		
国内新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	52	61	69	79	15.0%	182
	ガチフロ(自社販売) (合成抗菌剤)	9	11	11	11	0.0%	25
	ムコダイン (去痰剤)	77	85	89	90	1.3%	212
	バクシダール (合成抗菌剤)	3	3	3	2	▲17.2%	5
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	32	32	29	28	▲6.2%	56
	アブレース (抗潰瘍剤)	13	12	10	9	▲13.2%	18
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	12	11	10	9	▲8.7%	18
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	31	36	40	44	9.3%	89
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	—	—	—	5	—	11
海外新医薬品	海外売上合計	51	42	22	25	12.8%	42
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	48	35	18	16	▲11.7%	31
	ノルフロキサシン (バルク)	2	2	2	1	▲65.2%	2
	海外売上比率	16.7%	12.6%	6.3%	6.4%	—	5.0%
ヘルステア	ミルトン (哺乳ピン・乳首消毒剤)	12	11	10	10	▲4.1%	21

単位：
億円

主要製品売上の状況: 通期



	04年3月期	05年3月期	06年3月期	07年3月期		08年3月期 (予想)	08年3月期 (当初予想)	
				実績	前 同 比			
国内新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	98	118	134	150	12.1%	182	163
	ガチフロ(自社販売) (合成抗菌剤)	17	23	25	25	▲0.8%	25	23
	ムコダイン (去痰剤)	180	190	199	204	2.5%	212	210
	バクシダール (合成抗菌剤)	9	7	6	6	▲6.9%	5	5
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	70	66	63	58	▲8.3%	56	58
	アブレース (抗潰瘍剤)	29	26	24	20	▲13.2%	18	19
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	27	24	22	19	▲12.5%	18	18
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	60	64	73	80	10.3%	89	89
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	—	—	—	—	—	11	15
海外新医薬品	海外売上合計	85	88	86	58	▲32.8%	42	42
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	71	80	67	32	▲51.9%	31	30
	ノルフロキサシン (バルク)	11	4	3	4	12.2%	2	2
	海外売上比率	13.1%	13.3%	11.6%	7.5%	—	5.0%	5.0%
ヘルステア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	27	23	21	21	▲2.7%	21	22

(単位:
億円)

主な業績項目の推移：連結



(単位：百万円)

	05年9月期	06年9月期	07年9月期	07年3月期	08年3月期 (予想)	08年3月期 (当初予想)
売上高 (海外売上高)	33,511 (4,206)	35,093 (2,246)	39,363 (2,518)	77,093 (5,762)	83,400 (4,200)	83,600 (4,200)
売上原価 (売上原価率)%	11,450 (34.2%)	14,513 (41.4%)	14,701 (37.3%)	30,620 (39.7%)		
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	19,655 (58.6%)	18,639 (53.1%)	21,873 (55.6%)	38,059 (49.4%)		
うち研究開発費 (研究開発费率)%	6,001 (17.9%)	3,982 (11.3%)	5,676 (14.4%)	8,609 (11.2%)	10,900 (13.1%)	11,000 (13.2%)
営業利益 (営業利益率)%	2,406 (7.2%)	1,940 (5.5%)	2,788 (7.1%)	8,413 (10.9%)	7,900 (9.5%)	8,500 (10.2%)
経常利益 (経常利益率)%	2,753 (8.2%)	2,061 (5.9%)	3,118 (7.9%)	8,655 (11.2%)	8,500 (10.2%)	9,100 (10.9%)
中間純利益 (中間純利益率)%	1,459 (4.4%)	833 (2.4%)	953 (2.4%)	4,842 (6.3%)	3,700 (4.4%)	5,000 (6.0%)
一株当たり当期利益(円)	19.65円	11.21円	12.74円	64.97円	49.44円	66.78円
資本金	4,317	700	700	700		
総資産	116,566	117,915	121,776	124,039		
資本合計	91,483	-	-	-		
純資産	-	94,993	97,427	98,178		
一株当たり純資産(円)	1,231.80円	1,268.91円	1,301.82円	1,311.17円		
自己資本利益率%	1.6%	0.9%	1.0%	5.0%		
自己資本比率%	78.5%	80.0%	80.0%	79.2%		
人員(人)	1,947人	1,927人	2,003人	1,932人		
設備投資	982	1,223	1,451	2,954	2,500	2,800
減価償却費	1,660	2,304	2,214	4,544	4,600	4,600

* 05年9月期までの業績は杏林製薬の数値、06年9月中間期以降の業績及び08年3月期業績の予想は株式会社キョーリンの数値を示す

損益計算書の概要：杏林製薬単体①



(単位：百万円)

	06年9月期		07年9月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	30,268	100.0%	34,171	100.0%	12.9%	3,902
新医薬品	28,700	94.8%	32,689	95.7%	13.9%	3,988
国内	26,477	87.5%	30,289	88.7%	14.4%	3,812
海外	2,223	7.3%	2,399	7.0%	7.9%	176
後発医薬品	191	0.6%	178	0.5%	▲6.5%	▲12
ヘルスケア	1,376	4.6%	1,303	3.8%	▲5.4%	▲73

< 当期のポイント >

対前年

売上高 34,171百万円 (+3,902百万円)

国内新医薬品 30,289百万円 (+3,812百万円)

06.9実績 07.9実績(億円)

- ・キプレス 69 79(+10)
- ・ペンタサ 40 44(+4)
- ・ムコダイン 89 90(+1)
- ・ウリトス(新製品) 0 5(+5)

*ヘスパンダービジネスの譲渡に関する一時金収入等

海外新医薬品 2,399百万円 (+176百万円)

- ・ガチフロ 18 16(-2)

*一時金収入の増加

*ガチフロ；BMSテクイン販売中止、アラガン社ザイマーは続伸

後発医薬品 178百万円 (-12百万円)

ヘルスケア 1,303百万円 (-73百万円)

- ・ミルトン 10 10(±0)

損益計算書の概要：杏林製薬単体－②



(単位：百万円)

< 当期のポイント >

原価率：前年比 3.9ポイント減少
(37.6% 33.7%)

* 低下要因：自社品の新発売及び一時金収入の増加、
能代工場減価償却費の減少

研究開発費率：前年比 2.5ポイント上昇
(12.6% 15.1%)

* 38億円 52億円 (約14億円増加)：
共同開発費用の計上(06年度からの期ズレ)

販管費率(除R&D費)：前年比1.7ポイント減少
(43.9% 42.2%)

* 低下要因：新薬上市に伴い販促費は増加するものの
売上の増加により販管費率は低下

営業利益 3,076百万円
(+ 1,304百万円)

* 営業利益率は9.0%と3.1ポイント上昇

中間純利益 1,733百万円
(+ 779百万円)

特別損失：83百万円

	06年9月期		07年9月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	30,268	100.0%	34,171	100.0%	12.9%	3,902
売上原価	11,385	37.6%	11,522	33.7%	1.2%	137
売上総利益	18,882	62.4%	22,648	66.3%	19.9%	3,765
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	17,110 (3,808)	56.5% 12.6%	19,571 (5,155)	57.3% 15.1%	14.4% (35.4%)	2,461 (1,347)
営業利益	1,772	5.9%	3,076	9.0%	73.6%	1,304
営業外収益	452	1.5%	347	1.0%	▲23.2%	▲105
営業外費用	558	1.9%	100	0.3%	▲81.9%	▲457
経常利益	1,666	5.5%	3,323	9.7%	99.4%	1,657
特別利益	139	0.4%	9	0.0%	▲93.4%	▲129
特別損失	42	0.1%	83	0.2%	95.2%	40
税引前中間純利益	1,762	5.8%	3,249	9.5%	84.3%	1,486
法人税・住民税 及び事業税	578	1.9%	647	1.9%	11.8%	68
法人税等調整額	230	0.7%	868	2.5%	277.6%	638
中間純利益	953	3.2%	1,733	5.1%	81.7%	779

貸借対照表の概要：杏林製薬単体



(単位:百万円)

	07年3月期		07年9月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	55,296	52.1%	54,600	52.3%	▲696
現金および預金	9,337		3,916		
売掛金	27,570		23,986		
有価証券	999		8,005		
棚卸資産	12,596		15,048		
その他流動資産	4,791		3,642		
固定資産	50,745	47.9%	49,854	47.7%	▲891
有形固定資産	16,055		15,608		
無形固定資産	2,864		2,128		
投資その他	31,825		32,117		
資産合計	106,042	100.0%	104,454	100.0%	▲1,588
流動負債	14,655	13.8%	13,886	13.3%	▲768
支払手形	1,670		1,486		
買掛金	4,844		6,329		
その他流動負債	8,139		6,069		
固定負債	4,589	4.3%	4,426	4.2%	▲162
負債合計	19,244	18.1%	18,313	17.5%	▲931
株主資本	85,706	80.8%	85,211	81.6%	▲494
評価・換算差額等	1,091	1.1%	929	0.9%	▲162
純資産合計	86,797	81.9%	86,141	82.5%	▲656
負債及び純資産合計	106,042	100.0%	104,454	100.0%	▲1,588

<当期のポイント>

■ 流動資産： 696百万円減

- ・現金及び預金の減少 (5,421百万円減)
- ・売掛金の減少 (3,584百万円減)
- ・有価証券の増加 (7,005百万円増)
- ・棚卸資産の増加 (2,452百万円増)
- ・その他流動資産の減少 (1,148百万円減)

■ 固定資産： 891百万円減

- ・有形固定資産の減少 (446百万円減)
- ・無形固定資産の減少 (736百万円減)
- ・投資その他の増加 (291百万円増)

■ 流動負債： 768百万円減

- ・支払手形の減少 (183百万円減)
- ・買掛金の増加 (1,484百万円増)
- ・その他流動負債の減少 (2,070百万円減)

■ 固定負債： 162百万円減

主な業績項目の推移: 杏林製薬単体



(単位: 百万円)

	04年9月期	05年9月期	06年9月期	07年9月期	07年3月期	08年3月期 (予想)	08年3月期 (当初予想)
売上高 (輸出高)	30,423 (5,172)	31,609 (4,043)	30,268 (2,223)	34,171 (2,399)	66,052 (5,521)	71,700 (4,100)	70,600 (4,100)
売上原価 (売上原価率)%	10,833 (35.6%)	10,100 (32.0%)	11,385 (37.6%)	11,522 (33.7%)	23,815 (36.1%)		
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	17,999 (59.2%)	19,282 (61.0%)	17,110 (56.5%)	19,571 (57.3%)	34,623 (52.4%)		
うち研究開発費 (研究開発费率)%	5,972 (19.6%)	5,979 (18.9%)	3,808 (12.6%)	5,155 (15.1%)	8,216 (12.4%)	10,200 (14.2%)	10,300 (14.6%)
営業利益 (営業利益率)%	1,593 (5.2%)	2,226 (7.0%)	1,772 (5.9%)	3,076 (9.0%)	7,613 (11.5%)	8,000 (11.2%)	7,300 (10.3%)
経常利益 (経常利益率)%	1,790 (5.9%)	2,378 (7.5%)	1,666 (5.5%)	3,323 (9.7%)	7,615 (11.5%)	8,500 (11.9%)	7,900 (11.2%)
中間純利益 (中間純利益率)%	1,114 (3.7%)	1,178 (3.7%)	953 (3.2%)	1,733 (5.1%)	4,697 (7.1%)	4,400 (6.1%)	4,500 (6.4%)
一株当たり当期利益(円)	14.99円	15.86円	12.84円	23.34円	63.25円	59.24円	
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	
総資産	116,652	107,014	108,252	104,454	106,042		
資本合計	89,957	89,516	-	-	-		
純資産	-	-	91,476	86,141	86,797		
一株当たり純資産(円)	1,210.17円	1,205.25円	1,231.71円	1,159.87円	1,168.71円		
自己資本利益率%	1.2%	1.3%	1.0%	2.0%	5.2%		
自己資本比率%	77.1%	83.6%	84.5%	82.5%	81.9%		
人員(人)	1,646人	1,633人	1,524人	1,532人	1,488人		
設備投資	3,281	962	967	729	1,322	1,600	1,800
減価償却費	1,789	1,553	2,074	1,880	3,997	3,900	3,900